

レジャー活動における「するスポーツ」の 楽しみ方に関する研究（第2報）

——「好き・嫌い群」によるスポーツ用具・遊具の活用について——

西田 俊夫*・横内 靖典

研究目的

レジャー（自由時間）にスポーツやレクリエーション活動をすることは、近年その参加率が上昇傾向¹⁾にある。その理由として、マスメディアによる健康ブーム、日頃の体力づくり・運動不足への懸念、ストレス解消の目的、スポーツを楽しむなどが考えられる。特に、楽しむという視点からみた場合、「するスポーツ」の楽しみ方を再発見するためには、スポーツ用具・遊具との拘りが重要になってくる。その糸口を探るために第1報で「スポーツ用具・遊具の活用について」のアンケート調査を分析し、男女間での大きな差異を発見した。その結果3つの示唆を得ることができた²⁾。

1. 活用時期の差

用具・遊具の多用途活用頻度の時期をみると、男性では「高校期」に多いのに対して、女性は「小学校期」に多い。

2. 志向性の差

男性の集団志向型傾向に対して、女性の方は個人志向型の用具・遊具を活用している。

3. 用具・遊具種類の差

頻繁に活用している用具・遊具は、男性では「サッカー」、「バスケットボール」、「軟式野球」の順に対して、女性は「硬式テニス」、「縄とび」、「バスケットボール」の順であった。

そこで、今回の研究では、「好き・嫌い」という人間生活から切り離して考えることの出来ない要素が、どのようにスポーツ用具・遊具の活用に影響しているかを調査分析することを目的とした。

「好き・嫌い」の感情・好みといったものが、少なくともスポーツ用具・遊具の活用に影響を及ぼしているであろうと仮説を立て、実証を試みたのである。「好き・嫌い」という心理的作用は、日常生活において必ずいずれかと拘わることであり、無視できない要素である。「するスポーツ」の

* 淑徳大学国際コミュニケーション学部

楽しみ方においても、例外ではない。なぜなら、スポーツ・運動好き、ないし、スポーツが得意な者は、運動・スポーツにより多く、より積極的に取り組み、適切な経験があるからである。

一方、運動・スポーツの不得意な者や、運動・スポーツ嫌いな者の多くは、自我防衛的で失敗回避運動が強い³⁾と考えられる。運動・スポーツ嫌いな者は、失敗を恐れているため、目標設定がうまくできないことが多い。しかも適切な経験が不足していることから、自分の中にそのような客観的な認知を可能にする判断系が十分に形成されていない。このため、なおさら適切な要求水準を持つことが難しいのである。

プレイ論者のサットン・スミスは、「未熟な者は技能を身につけていないので遊んでいない。彼らは、技能をマスターするまでは強化の欠如やフラストレーションがプレイの可能性を制限しがちである」⁴⁾と論じている。このように、スポーツやゲームを楽しむためには、最低限の基礎的スキルを習得することやスポーツ用具・遊具を上手に活用することが必要である。したがって、スポーツ用具・遊具の活用も「好き」になるための必要条件となってくる。これらのスポーツ用具・遊具の活用が、「するスポーツ」において大きな喜びや楽しみを感じる上で重要な点である。また、日常生活で常に存在する「好き・嫌い」の要素を把握し、効果的に運動・スポーツをすることが可能になり得るとすれば、生涯スポーツ、レジャー・レクリエーションがさらに、日常生活と結びつくことになる。

研究対象

関東地区にある A 大学・B 大学・C 大学の学生

男性 331 名、女性 150 名、合計 481 名のうち、

男性で「好き」と回答した 158 名、「嫌い」と回答した 74 名、計 232 名

女性で「好き」と回答した 66 名、「嫌い」と回答した 32 名、計 98 名

合計 330 名である。

研究方法

1. 調査手段 選択回答式（一部筆記）のアンケート調査
2. 調査期間 2001 年 5 月 7 日～2001 年 5 月 31 日の間
3. 実施方法 講義時にアンケート調査用紙を配布し主旨を説明の後、回答を求める
データ入力・集計処理は城西大学情報処理センターの大型コンピュータ
富士通 M-1700 分析リストは ANALIST を使用
4. 調査内容 下記の 7 項目について質問した。

- (1) 「好き・嫌い群」による現在所有しているスポーツ用具・遊具の現数について
- (2) 「好き・嫌い群」によるスポーツ用具・遊具を活用した時期について
- (3) 「好き・嫌い群」による過去に所有したスポーツ用具・遊具の紛失・破損・譲渡について
- (4) 「好き・嫌い群」によるスポーツ用具・遊具の活用状況について
- (5) 「好き・嫌い群」によるスポーツ用具・遊具の購入について
- (6) 「好き・嫌い群」による仲間と楽しめるスポーツ用具・遊具について
- (7) 「好き・嫌い群」による大切にしているスポーツ用具・遊具について

5. 本研究のスポーツ用具・遊具の分類 下記の38分類で分析した。

1 野球群	<ul style="list-style-type: none"> 硬式野球 軟式野球 準硬式野球 他 	13 縄とび	<ul style="list-style-type: none"> 体操 鉄棒 他 		
		14 万歩計			
		15 体操群			
		16 竹馬			
2 ソフトボール		17 一輪車			
3 サッカー		18 水泳群	<ul style="list-style-type: none"> 水泳 浮袋 シュノーケル 他 		
4 テニス群	<ul style="list-style-type: none"> 硬式テニス ソフトテニス 他 	19 サーフィン群	<ul style="list-style-type: none"> ウィンドサーフィン サーフィンボード 他 		
		5 卓球			
		6 バドミントン			
7 バレーボール		20 陸上群	<ul style="list-style-type: none"> 陸上 他 		
8 バスケットボール		21 ダンス			
9 ハンドボール		22 アイススケート			
10 アメリカンフットボール		23 スキー群	<ul style="list-style-type: none"> スキー スノーボード 他 		
11 ラグビー					
12 トレーニング群	<ul style="list-style-type: none"> バーベル ダンベル 鉄アレー ハンドグリップ エキスパンダー チューブ トレーニング 体力測定 他 			24 空スポーツ群	<ul style="list-style-type: none"> スカイダイビング ハングライダー 他

		登山	32	インディアカ	
25	キャンプ群	キャンプ	33	フライングディスク (フリスビー)	
		他	34	ダーツ	
26	釣り				柔道
27	ダイビング				
		インラインスケート	35	格技群	空手
28	スケート群	ローラースケート			
29	ゴルフ	キックボード			他
		他	36	弓道	
30	ボーリング		37	レスリング	
		ゲートボール	38	フェンシング	
31	ゲートボール群	バーンゴルフ			
		他			

結果と考察

(1) スポーツ「好き・嫌い群」による現在所有しているスポーツ用具・遊具について (表1)

① 好き・嫌い群による現数からのスポーツ用具・遊具の所有個数の平均値 (表1-①)

所有個数の平均値は、全体では好き群7.4個であり、嫌い群6.7個である。

性別で見ると、男性の好き群が6.9個であり嫌い群6.7個に対して女性の好き群が8.4個、嫌い群6.8個である。スポーツ好き・嫌い群を問わずに男性より女性の方が所有個数が多くなっている。さらに、性別を問わず嫌い群よりも好き群の方が所有個数が上回っている。女性の好き群の所有個数が一番多く、男性の嫌い群が一番少ないことがわかる。

② 好き・嫌い群によるスポーツ用具・遊具の種類数 (表1-②)

スポーツ用具・遊具の種類は、全体では好き群65種類であり、嫌い群63種類である。

性別で見ると、男性の好き群が61種類、嫌い群61種類に対して、女性の好き群が52種類、嫌い群37種類となっており、女性よりも男性の方が多種類所有している。男性は好き・嫌い群を問わず同種類数を所有している。一方、女性は男性より種類数が下回り、しかも好き・嫌い群での差が大きいことがわかる。

③ 好き・嫌い群による多く活用されたスポーツ用具・遊具 (表2)

スポーツ用具・遊具のなかで、全体順位の上位5をみると、好き群は「野球群」、「サッカー」、

表1 調査項目データ一覧表

調査項目	性別		全体			男性			女性			有意差の検定					
	検定対象		①	②		③	④		⑤	⑥		***0.01 **0.05 *0.1					
	質問項目		スポーツ好き・嫌い群別		好き群	嫌い群	計	好き群	嫌い群	計	好き群	嫌い群	計	①-②	③-④	⑤-⑥	③-⑤
	標本数	全標本数	度数 %	224 67.879	106 32.121	330 100	158 47.879	74 22.424	232 70.303	66 20	32 9.697	98 29.697	—	—	—	*	*
①所有数		度数/標本数 平均値	1654 7.38	711 6.71	2365 7.17	1098 6.94	493 6.66	1591 6.86	556 8.42	218 6.81	774 7.9						
②時期別 用具・遊具の 種類数	時期	全体 全種類	度数 %	65 98.485	63 95.455	66 100	61 92.424	61 92.424	64 96.97	52 78.788	37 56.061	52 78.788					
		小学校以前 全種類	度数 %	36 54.545	15 22.727	35 53.03	30 45.455	11 16.667	30 45.455	24 36.364	8 12.121	24 36.364					
		小学校 全種類	度数 %	44 66.667	26 39.394	45 68.182	41 62.121	40 60.606	41 62.121	21 31.818	12 18.182	25 37.879					
		中学校 全種類	度数 %	42 63.636	21 31.818	41 62.121	38 57.576	26 39.394	38 57.576	21 31.818	7 10.606	21 31.818					
		高校 全種類	度数 %	44 66.667	38 57.576	49 74.242	40 60.606	34 51.515	44 66.667	19 28.788	8 12.121	21 31.818					
		大学 全種類	度数 %	20 30.303	10 15.152	24 36.364	20 30.303	10 15.152	24 36.364	7 10.606	0 0	7 10.606					
		全 全所有数	度数 %	1005 71.378	403 28.622	1408 100	745 52.912	270 19.176	1015 72.088	318 22.585	86 6.108	404 28.693					
	時期	小学校以前 全所有数	度数 %	168 11.932	36 2.5558	204 14.489	92 6.5341	22 1.5625	114 8.0966	76 5.3977	14 0.9943	90 6.392					
		小学校 全所有数	度数 %	345 24.503	126 8.9489	471 33.452	229 16.264	96 6.8182	325 23.082	116 8.2386	30 2.1307	146 10.369					
		中学校 全所有数	度数 %	236 16.761	92 6.5341	328 23.295	162 11.506	68 4.8295	230 16.335	74 5.2557	24 1.7045	98 6.9602					
		高校 全所有数	度数 %	249 17.685	89 6.321	338 24.006	207 14.702	73 5.1847	280 19.886	42 2.983	16 1.1364	58 4.1193					
		大学 全所有数	度数 %	65 4.6165	13 0.9233	78 5.5398	55 3.9063	11 0.7813	66 4.6875	10 0.7102	2 0.142	12 0.8523					
		現在所有 全所有数	度数 %	1005 71.378	403 28.622	1408 100	745 52.912	270 19.176	1015 72.088	318 22.585	86 6.108	404 28.693					
		無くした 全所有数	度数 %	63 4.4744	60 4.2614	122 8.6648	45 3.196	40 2.8409	85 6.0369	18 1.2784	20 1.4205	38 2.6989	**	**	—	—	—
③用具・遊具の行方	破損 全所有数	度数 %	77 5.4688	35 2.4858	109 7.7415	57 4.0483	25 1.7756	82 5.8239	20 1.4205	6 0.4261	26 1.8466	—	—	*	—	*	
	譲渡 全所有数	度数 %	25 1.7756	16 1.1364	41 2.9119	19 1.3494	14 0.9943	33 2.3438	6 0.4261	2 0.142	8 0.5682	**	**	—	**	—	
	計																
	④用具の活用状況	頻繁に活用 頻度/標本数	度数 比率	196 0.875	76 0.7169	272 0.8442	168 1.0632	56 0.7567	224 0.9655	28 0.4242	40 0.625	48 0.4897					
		時々活用 頻度/標本数	度数 比率	326 1.4553	111 1.0471	437 1.3242	248 1.5696	91 1.2297	339 1.4612	78 1.1818	20 0.625	98 1					
活用の計 頻度/標本数		度数 比率	521 2.3303	176 1.7641	697 2.1484	416 2.6329	147 1.9864	563 2.4267	106 1.4545	40 1.25	146 1.3877	**	—	*	—	—	
活用せず 頻度/標本数		度数 比率	538 2.379	226 2.132	764 2.3	328 2.063	170 2.297	498 2.146	210 3.016	56 1.75	266 2.714	—	—	*	—	—	
⑤用具・遊具の 購入	購入 方法	最近購入 頻度/標本数	度数 比率	118 0.4375	21 0.1698	139 0.352	93 0.481	19 0.262	112 0.3966	24 0.3333	2 0.0625	26 0.2448	—	—	—	—	—
		自分の資金 頻度/標本数	度数 比率	246 0.8348	86 0.6226	332 0.7666	218 1.0316	72 0.7297	290 0.9353	28 0.3636	14 0.375	42 0.3673	—	—	—	—	—
	購入 希望	常識の範囲 頻度/標本数	度数 比率	92 0.61	12 0.1132	104 0.3551	84 0.5316	12 0.1621	96 0.4137	8 0.1212	0 0	8 0.0816	—	—	—	—	—
		十分な資金 頻度/標本数	度数 比率	64 0.2857	21 0.1981	85 0.2575	54 0.3417	7 0.0945	61 0.2629	10 0.1515	14 0.4375	24 0.2448	—	—	—	—	—
⑥仲間と楽しめる用具・ 遊具	回答数	度数	257	118	375	205	94	299	102	48	150	—	—	—	—	—	
	頻度/標本数	比率	1.147	1.113	1.136	1.297	1.27	1.288	1.545	1.5	1.53						
⑦大切にしている用具・ 遊具	回答数	度数	174	45	219	144	44	188	50	2	52	*	**	*	—	—	
	頻度/標本数	比率	0.776	0.424	0.663	0.911	0.594	0.81	0.757	0.06	0.53						

表2-④

小学校以前		小学校		中学校		高校		大学		計		
順位	用具・遊具名	度数	%	用具・遊具名	度数	%	用具・遊具名	度数	%	用具・遊具名	度数	%
1	水泳群	4	1.48	縄跳び	15	5.56	トレニング群	12	4.44	サッカー	3	1.11
2	サッカー	4	1.48	野球群	14	5.19	野球群	10	3.70	バスケットボール	2	0.74
3	縄跳び	3	1.11	バスケットボール	9	3.33	バスケットボール	7	2.59	トレニング群	2	0.74
4	バドミントン	2	0.74	卓球	7	2.59	サッカー	6	2.22	万歩計	1	0.37
5	サーフィン群	2	0.74	バドミントン	6	2.22	サッカー	4	1.48	テニス群	1	0.37
6	キャンプ群	2	0.74	バスケットボール	5	1.85	格技群	3	1.11	バスケットボール	1	0.37
7				ソフトボール	5	1.85	釣り	3	1.11	卓球	13	4.81
8				ソフトボール	5	1.85	卓球	3	1.11	バスケットボール	11	4.07
9				スキー群	5	1.85	卓球	3	1.11	格技群	11	4.07
10				水泳群	5	1.85	水泳群	3	1.11	バドミントン	10	3.70

表2-⑤

小学校以前		小学校		中学校		高校		大学		計		
順位	用具・遊具名	度数	%	用具・遊具名	度数	%	用具・遊具名	度数	%	用具・遊具名	度数	%
1	水泳群	16	5.03	バスケットボール	18	5.66	テニス群	16	5.03	ゲートボール群	4	1.26
2	縄跳び	8	2.52	バドミントン	14	4.40	トレニング群	12	3.77	テニス群	2	0.63
3	スケート群	8	2.52	卓球	12	3.77	バレーボール	10	3.14	バドミントン	30	9.43
4	バドミントン	6	1.89	野球群	10	3.14	バドミントン	10	3.14	水泳群	2	0.63
5	卓球	6	1.89	スケート群	10	3.14	スキー群	8	2.52	万歩計	24	7.55
6	スキー群	6	1.89	一輪車	10	3.14	ソフトボール	6	1.89	サッカー	20	6.29
7	サッカー	6	1.89	縄跳び	6	1.89	陸上群	2	0.63	卓球	20	6.29
8	野球群	4	1.26	水泳群	6	1.89	卓球	2	0.63	スキー群	18	5.66
9	一輪車	4	1.26	釣り	4	1.26	サーフィン群	2	0.63	スケート群	18	5.66
10				ダンス	4	1.26	キャンプ群	2	0.63	スキー群	18	5.66
11				ソフトボール	4	1.26	格技群	2	0.63	縄跳び	16	5.03
12				スキー群	4	1.26	格技群	2	0.63	野球群	14	4.40
13					4	1.26		2	0.63	一輪車	14	4.40

表2-⑥

小学校以前		小学校		中学校		高校		大学		計		
順位	用具・遊具名	度数	%	用具・遊具名	度数	%	用具・遊具名	度数	%	用具・遊具名	度数	%
1	縄跳び	6	0.25	縄跳び	10	11.63	テニス群	10	11.63	スケート群	2	2.33
2	万歩計	2	0.08	スケート群	6	6.98	バレーボール	4	4.65	万歩計	4	4.65
3	サーフィン群	2	0.08	一輪車	6	6.98	バドミントン	4	4.65	スキー群	2	2.33
4	キャンプ群	2	0.08	万歩計	2	2.33	縄跳び	2	2.33	スケート群	2	2.33
5	一輪車	2	0.08	釣り	2	2.33	卓球	2	2.33	一輪車	8	9.30
6				ソフトボール	2	2.33	スキー・スノーボード	2	2.33	バレーボール	8	9.30
7				サッカー	2	2.33		2	2.33	バドミントン	4	4.65
8										スキー群	4	4.65

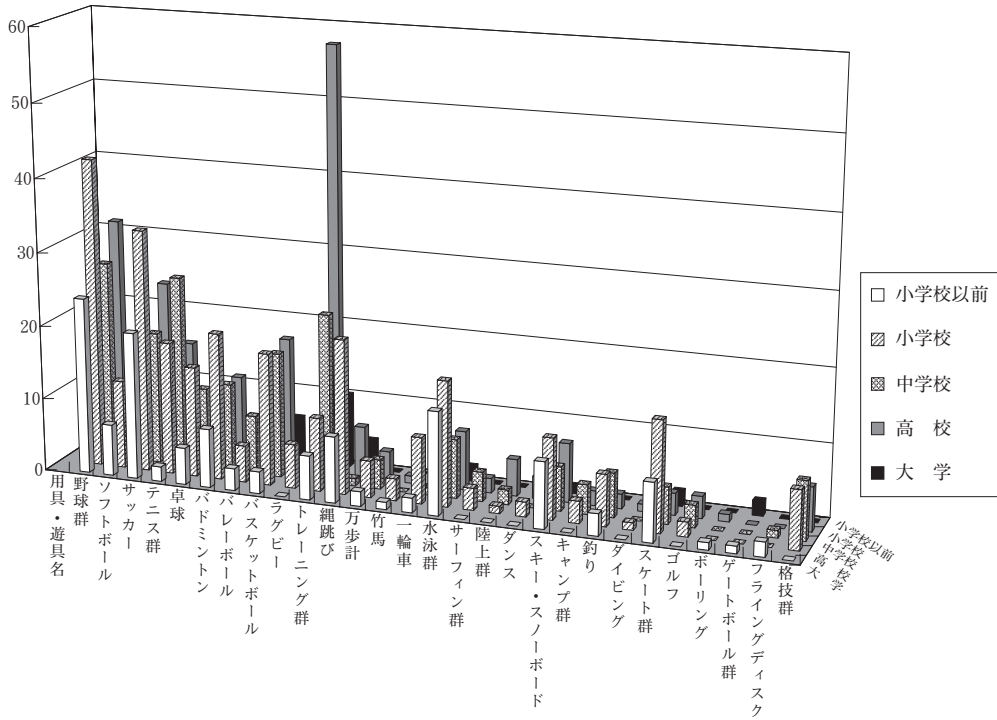


図 1-① スポーツ好き群 (全体)

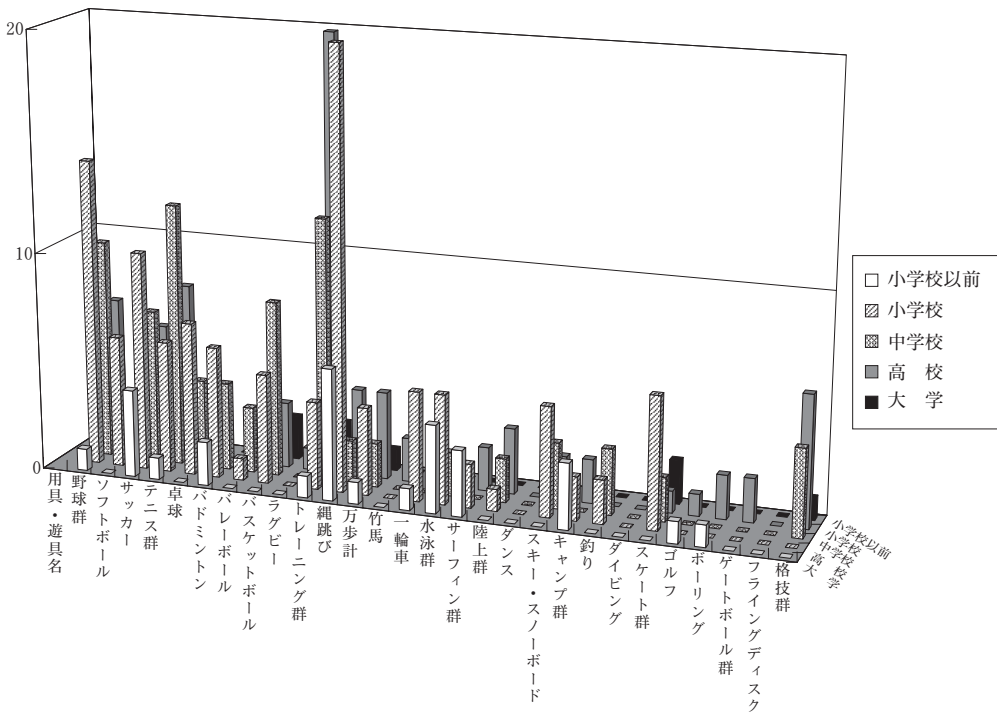


図 1-② スポーツ嫌い群 (全体)

「トレーニング群」, 「テニス群」, 「バスケットボール」であり、嫌い群では「トレーニング群」, 「縄とび」, 「野球群」, 「サッカー」, 「テニス群」となっている。

性別でみると、男性の好き群は「野球群」, 「サッカー」, 「トレーニング群」, 「バスケットボール」, 「テニス群」の順に対して、嫌い群では「トレーニング群」, 「野球群」, 「サッカー」, 「縄とび」, 「テニス群」の順となっている。一方、女性の好き群は「テニス群」, 「バドミントン」, 「水泳群」, 「トレーニング群」, 「バスケットボール」の順に対して、嫌い群では「縄とび」, 「テニス群」, 「万歩計」, 「一輪車」, 「スケート群」の順となっている。

好き・嫌い群問わずに共通している用具・遊具は、「野球群」, 「サッカー」, 「トレーニング群」, 「テニス群」, 「バスケットボール」であり、球技種目が多く占めている。多く活用している用具・遊具も好き・嫌い群を問わず同傾向を示している。性差の好き・嫌い群でみると、男女共通して好き群は「バドミントン」, 「テニス群」, 「トレーニング群」, 「バスケットボール」が多く占めている。

(2) スポーツ「好き・嫌い群」によるスポーツ用具・遊具を活用した時期について（表1-②）

スポーツ用具・遊具を活用した時期を「小学校以前期」, 「小学校期」, 「中学校期」, 「高校期」, 「大学期」の5段階に区分して分析すると、全体の種類数では好き群の最も多い時期は「高校期」と「小学校期」の44種類である。これに対し、嫌い群の最も多い時期としては、「高校期」の38種類となっている。

性別でみると、男性の好き群で最も多い時期は「小学校期」の41種類に対し、嫌い群で最も多い時期としては「小学校期」の40種類となっている。一方、女性の好き群で最も多い時期は、「小学校以前期」の24種類に対して、嫌い群で最も多い時期として「小学校期」の7種類となっている。その結果を好き・嫌い群でみると、5段階のすべての時期で好き群の方が所有個数と種類数において広く分布していることが捉えられた。

次に、好き・嫌い群によるスポーツ用具・遊具が多く活用された時期を段階別に分析すると、以下のとおりである。

① 「小学校以前期」の好き・嫌い群によるスポーツ用具・遊具（表2）

この時期の用具・遊具の上位3をみると、全体では好き群「野球群」, 「サッカー」, 「水泳群」の順で、嫌い群「縄とび」, 「水泳群」, 「サッカー」の順となっている。

性別でみると、男性の好き群では「野球群」, 「サッカー」, 「ソフトボール」の順に対して、嫌い群は「サッカー」, 「水泳群」, 「縄とび」の順となっている。一方、女性の好き群では「水泳群」, 「縄とび」, 「スケート群」に対して、嫌い群は「縄とび」, 「一輪車」, 「キャンプ群」の順となっている。

この時期の傾向は、女性の好き群は「スケート群」,「水泳群」が多いのに対して、男性の好き群は球技系の用具・遊具が多く占めている。一方、嫌い群は男女共「縄とび」となっている。好き・嫌い群や性差を問わずに活用している用具・遊具としては、「水泳群」となっている。好き・嫌い群を問わずに性差をみると、男性の場合は「サッカー」,「水泳群」が多く占めているのに対して、女性は「縄とび」となっている。

② 「小学校期」の好き・嫌い群によるスポーツ用具・遊具（表2）

この時期の用具・遊具の上位3をみると、全体では好き群「野球群」,「サッカー」,「縄とび」の順で、嫌い群「縄とび」,「野球群」,「サッカー」の順となっている。

性別でみると、男性の好き群では「野球群」,「サッカー」,「縄とび」の順に対して、嫌い群は「縄とび」,「野球群」,「サッカー」の順となっている。一方、女性の好き群では「バスケットボール」,「バドミントン」,「卓球」に対して、嫌い群は「縄とび」,「一輪車」,「スケート群」の順となっている。

この時期の傾向として、男性は好き・嫌い群を問わず用具・遊具の活用は同傾向であるのに対して、女性の方は異傾向を示している。このことから、女性は好き・嫌いの区別をつけ、しかも用具・遊具を活用する選択肢が広いと考えられる。女性の嫌い群は「小学校以前期」と同傾向である。

③ 「中学校期」の好き・嫌い群によるスポーツ用具・遊具（表2）

この時期の用具・遊具の上位3をみると、全体では好き群「野球群」,「テニス群」,「トレーニング群」の順で、嫌い群「トレーニング群」,「テニス群」,「野球群」の順となっている。

性別でみると、男性の好き群では「野球群」,「サッカー」,「テニス群」の順に対して、嫌い群は「トレーニング群」,「野球群」,「バスケットボール」の順となっている。一方、女性の好き群では「テニス群」,「トレーニング群」,「バドミントン」・「バレーボール」の順に対して、嫌い群は「テニス群」,「バドミントン」・「バレーボール」の順となっている。

この時期の傾向は、「トレーニング群」の用具・遊具を活用するようになるということである。男性は、好き・嫌い群を問わず用具・遊具の活用は同傾向である。一方、女性の嫌い群は「トレーニング群」の用具・遊具は全く活用していないのが特徴である。

④ 「高校期」の好き・嫌い群によるスポーツ用具・遊具（表2）

この時期の用具・遊具の上位3をみると、全体では好き群「トレーニング群」,「野球群」,「サッカー」の順で、嫌い群「トレーニング群」,「テニス群」,「野球群」の順となっている。

性別でみると、男性の好き群では「トレーニング群」,「野球群」,「サッカー」の順に対して、

嫌い群でも「トレーニング群」,「野球群」,「サッカー」の順となっており,同傾向を示している。一方,女性の好き群では「テニス群」,「トレーニング群」,「水泳群」の順に対して,嫌い群は「テニス群」,「スキー群」,「水泳群」の順になっている。

この時期の傾向は,全体の好き・嫌い群を比較すると同傾向の用具・遊具を挙げ,男性も同様である。女性では好き・嫌い群問わずに「テニス群」,「水泳群」が共通している。それは人気のあるスポーツという点と健康やダイエット効果を期待してのことであると推察される。

⑤ 「大学期」の好き・嫌い群によるスポーツ用具・遊具（表2）

この時期の用具・遊具の上位3をみると,全体では好き群「サッカー」,「トレーニング群」,「バスケットボール」の順で,嫌い群「サッカー」,「バスケットボール」,「トレーニング群」の順となっている。

性別でみると,男性の好き群では「サッカー」,「トレーニング群」,「バスケットボール」の順に対して,嫌い群は「サッカー」,「バスケットボール」,「トレーニング群」の順となっている。一方,女性の好き群では「ゲートボール群」,「サッカー」,「テニス群」に対して,嫌い群では「スケート群」となっている。

この時期の傾向は,用具・遊具の活用頻度が低い。特に,嫌い群では活用頻度が極度に低いことがわかる。性差でみると,男性は現在所有しているものを活用し,スポーツ種目が固定されているのに対して,女性の方は「するスポーツ」への参加率が低く運動不足傾向がみられる。

各時期を総合的に分析すると,初期段階の小学校以前期と小学校期でスポーツ用具・遊具の活用が好き・嫌い群でそれぞれ同傾向を示している。好き群では「野球群」,「サッカー」が上位を占めているのに対して,嫌い群は「縄とび」が最も好まれ活用されているからである。また,初期の段階ですでに好き・嫌い群の間には,あきらかな差がみられる。それは,好き群は積極的で集团的スポーツを好む傾向が高いのに対して,嫌い群は消極的で個人的スポーツ用具・遊具を多く活用している傾向がみられることである。

さらに,中学校期と高校期も各々同傾向を示している。小学校期と比較すると「トレーニング群」が上位を占めるようになり,活用するスポーツ用具・遊具が異なってきている。しかし,女性の嫌い群は「トレーニング群」の用具・遊具には無関心でほとんど活用されていない。その理由としては,トレーニングに対して,疲れる,きつい,つまらないなどのイメージが強すぎるためであろうと考えられる。

(3) スポーツ「好き・嫌い群」による過去に所有したスポーツ用具・遊具の紛失・破損・譲渡について（表3）

好き・嫌い群による過去に所有していたスポーツ用具・遊具が現在どのように活用されている

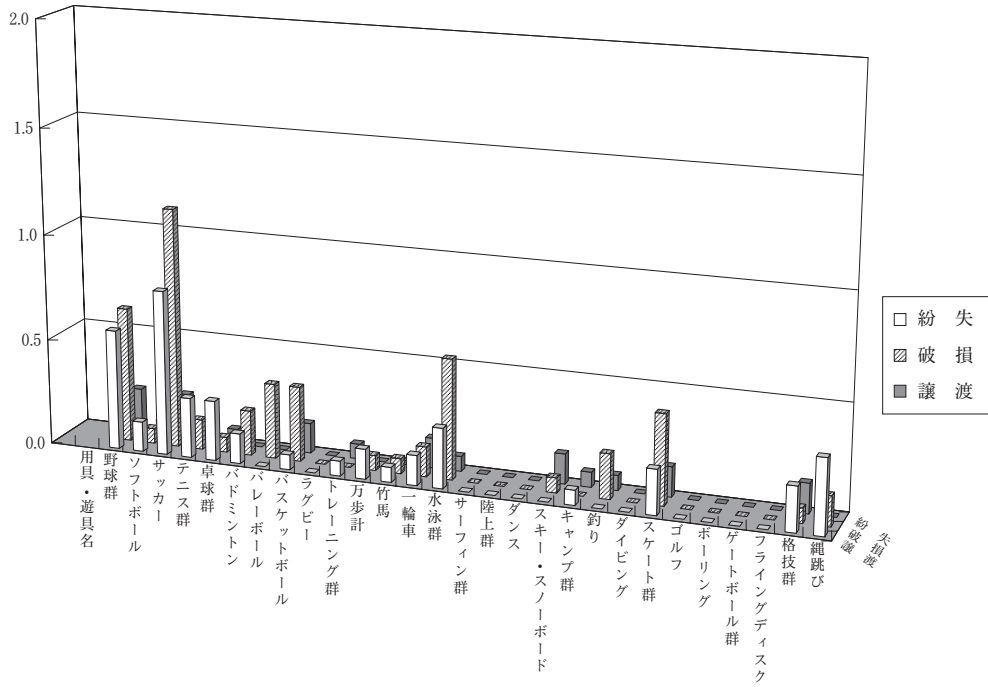


図 2-① スポーツ好き群（全体）

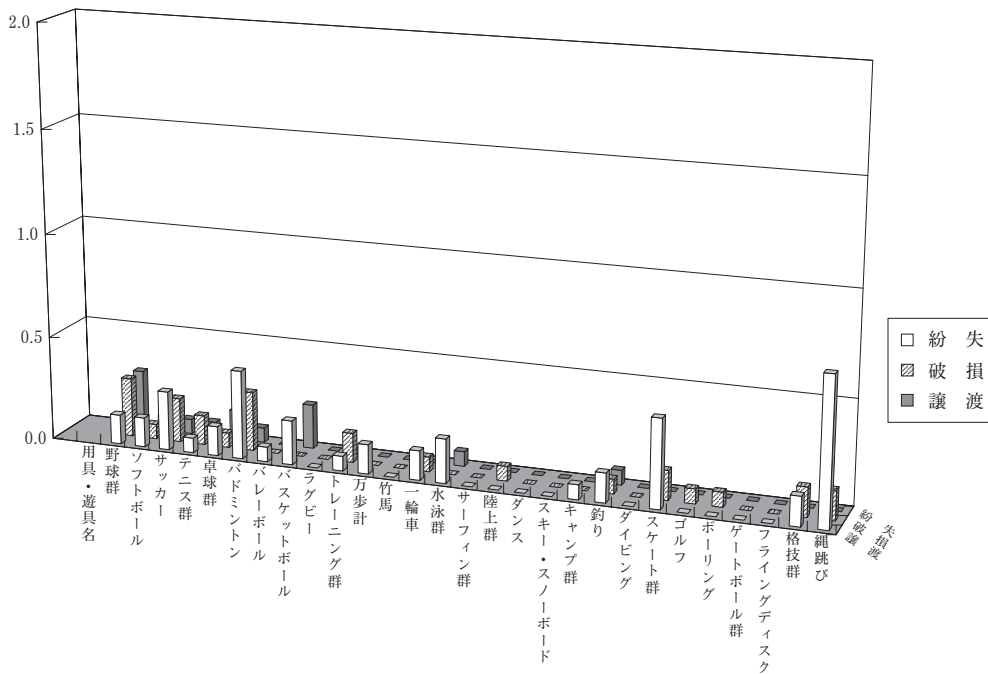


図 2-② スポーツ嫌い群（全体）

かを紛失・破損・譲渡の3項目の調査結果からみると、以下のとおりである。

① 紛失した用具・遊具を好き・嫌い群から全体的にみると（表3-①），上位を占めるものとして、好き群では「サッカー」、「野球群」、「縄とび」の順で、嫌い群は「縄とび」、「スケート群」、「バドミントン」、「サッカー」の順となっている。

性別でみると、男性の好き群では「サッカー」、「野球群」、「卓球」の順に対して、嫌い群は「縄とび」、「サッカー」、「バドミントン」の順となっている。一方、女性の好き群では「スケート群」、「一輪車」、「ソフトボール」の順に対して、嫌い群は「スケート群」、「一輪車」、「バドミントン」の順となっている。

② 破損した用具・遊具を好き・嫌い群から全体的にみると（表3-②），上位を占めるものとして、好き群では「サッカー」、「水泳群」、「野球群」の順で、嫌い群は「バドミントン」、「野球群」、「サッカー」の順となっている。

性別でみると、男性の好き群では「サッカー」、「野球群」、「バスケットボール」の順に対して、嫌い群は「野球群」、「サッカー」、「バドミントン」・「スケート群」の順となっている。一方、女性の好き群では「水泳群」、「スケート群」、「バレーボール」の順に対して、嫌い群は「バドミントン」、「一輪車」、「スケート群」の順となっている。

③ 譲渡した用具・遊具を好き・嫌い群から全体的にみると（表3-③），上位を占めるものとして、好き群では「野球群」、「サッカー」、「一輪車」の順で、嫌い群は「野球群」、「バスケットボール」、「卓球」の順となっている。

性別でみると、男性の好き群では「野球群」、「サッカー」、「バスケットボール」の順に対して、嫌い群では「野球群」、「バスケットボール」、「卓球」の順となっている。一方、女性の好き群では「一輪車」、「水泳群」、「スケート群」の順に対して、嫌い群は「バドミントン」となっている。

スポーツ用具・遊具の紛失・破損・譲渡については、好き・嫌い群の男女差の検定を行った。

紛失については、全体と男性の好き・嫌い群の間に0.05%、破損については女性の好き・嫌い群の間に0.1%、また男性の嫌い群と女性の嫌い群の間に0.1%、譲渡については全体と男性の好き・嫌い群の間に0.05%、男性の好き群と女性の好き群の間に0.05%とそれぞれ有意な差が認められた。

(4) スポーツ「好き・嫌い群」によるスポーツ用具・遊具の活用状況について(表1-④・表4)

好き・嫌い群による現在どの程度のスポーツ用具・遊具を活用しているのか、それとも全く活

表4 スポーツ用具・遊具の活用状況別頻度%（ベスト10）

全 体												
好 き 群						嫌 い 群						
活 用			活 用 せ ず			活 用			活 用 せ ず			
用具・遊具名	順位	度数 %	用具・遊具名	順位	度数 %	用具・遊具名	順位	度数 %	用具・遊具名	順位	度数 %	
野球群	1	80 15.4	野球群	1	61 11.3	野球群	1	48 31.4	野球群	1	40 17.7	
サッカー	2	78 15.0	テニス群	2	36 6.7	サッカー	2	25 16.3	縄跳び	2	24 10.6	
トレーニング群	3	76 14.6	水泳群	3	30 5.6	トレーニング群	3	24 15.7	トレーニング群	3	14 6.2	
バスケットボール	4	36 6.9	サッカー	4	35 6.5	縄跳び	4	17 11.1	テニス群	4	13 5.8	
バドミントン	5	31 6.0	トレーニング群	5	30 5.6	テニス群	5	15 9.8	スケート群	5	11 4.9	
テニス群	6	31 6.0	バスケットボール	6	26 4.8	卓球	6	10 6.5	サッカー	6	11 4.9	
スキー群	7	21 4.0	卓球	7	27 5.0	バスケットボール	7	9 5.9	卓球	7	10 4.4	
縄跳び	8	19 3.6	縄跳び	8	31 5.8	万歩計	8	5 3.3	バドミントン	8	9 4.0	
水泳群	9	19 3.6	バドミントン	9	24 4.5	水泳群	9	4 2.6	バスケットボール	9	9 4.0	
卓球	10	10 1.9	スケート群	10	25 4.7	スキー群	10	3 2.0	格技群	10	9 4.0	
						キャンプ群	11	3 2.0				
						陸上群	12	3 2.0				

男												
好 き 群						嫌 い 群						
活 用			活 用 せ ず			活 用			活 用 せ ず			
用具・遊具名	順位	度数 %	用具・遊具名	順位	度数 %	用具・遊具名	順位	度数 %	用具・遊具名	順位	度数 %	
サッカー	1	77 18.5	野球群	1	55 16.8	野球群	1	48 32.7	野球群	1	40 23.5	
野球群	2	75 18.0	サッカー	2	32 9.8	トレーニング群	2	25 17.0	縄跳び	2	16 9.4	
トレーニング群	3	71 17.1	テニス群	3	27 8.2	サッカー	3	21 14.3	トレーニング群	3	14 8.2	
バスケットボール	4	33 7.9	トレーニング群	4	23 7.0	テニス群	4	11 7.5	テニス群	4	10 5.9	
バドミントン	5	21 5.0	卓球	5	22 6.7	バスケットボール	5	9 6.1	バドミントン	5	9 5.3	
テニス群	6	21 5.0	バドミントン	6	19 5.8	縄跳び	6	7 4.8	バスケットボール	6	9 5.3	
縄跳び	7	17 4.1	バスケットボール	7	19 5.8	卓球	7	4 2.7	卓球	7	9 5.3	
水泳群	8	16 3.8	縄跳び	8	17 5.2	陸上群	8	3 2.0	格技群	8	9 5.3	
スキー群	9	15 3.6	水泳群	9	17 5.2	万歩計	9	3 2.0	水泳群	9	8 4.7	
スケート群	10	9 2.2	格技群	10	17 5.2	スキー群	10	3 2.0	サッカー	10	8 4.7	
						水泳群	11	3 2.0				

女												
好 き 群						嫌 い 群						
活 用			活 用 せ ず			活 用			活 用 せ ず			
用具・遊具名	順位	度数 %	用具・遊具名	順位	度数 %	用具・遊具名	順位	度数 %	用具・遊具名	順位	度数 %	
バドミントン	1	10 18.9	水泳群	1	13 12.4	縄跳び	1	5 25.0	縄跳び	1	4 14.3	
テニス群	2	10 18.9	スケート群	2	10 9.5	テニス群	2	4 20.0	スケート群	2	4 14.3	
スキー群	3	6 11.3	テニス群	3	9 8.6	サッカー	3	4 20.0	一輪車	3	4 14.3	
トレーニング群	4	5 9.4	バスケットボール	4	7 6.7	万歩計	4	2 10.0	万歩計	4	3 10.7	
卓球	5	5 9.4	縄跳び	5	7 6.7	バレーボール	5	2 10.0	テニス群	5	3 10.7	
バスケットボール	6	3 5.7	トレーニング群	6	7 6.7	バドミントン	6	2 10.0	サッカー	6	3 10.7	
陸上群	7	2 3.8	一輪車	7	7 6.7				スキー群	7	2 7.1	
ソフトボール	8	2 3.8	野球群	8	6 5.7							
水泳群	9	2 3.8	バレーボール	9	5 4.8							
ゲートボール群	10	2 3.8	バドミントン	10	5 4.8							
			卓球	11	5 4.8							

用していないのかを調査結果でみると、以下のとおりである。

- ① 現在活用されている用具・遊具を好き・嫌い群から全体的にみると（表1-④），活用頻度は嫌い群(1.76)よりも好き群（2.33）の方が高いことがわかる。

性別でみると、男女とも好き群の方が活用頻度が高く、しかも女性より男性の方が高いことがわかる。一方で、現在活用されていない用具・遊具を好き・嫌い群から全体的にみると、嫌い群(2.13)よりも好き群（2.38）の方が高くなっている。性別でみると、女性の好き群（3.02）が一番活用されていず、次いで、男性の嫌い群（2.29），男性の好き群（2.06），女性の嫌い群（1.75）の順となっている。

次に、種類数でみると（表4），全体の好き群が25種類に対して、嫌い群が18種類となっている。性別でみると、男性の好き群が25種類、嫌い群は18種類に対して、女性の好き群では16種類、嫌い群は7種類となっている。男女問わず好き群の方が多くなっている。

好き群で活用しない理由として、ある時期には活用していたが、現在は活用していないことやシーズンスポーツ（例、スケート・水泳など）によって左右されることなどが挙げられる。性差で考えられることは、男性の場合は日常的なスポーツ用具・遊具が活用されず、そして女性の場合はシーズンスポーツの用具・遊具が活用されなくなったということである。

- ② 頻繁に活用している用具・遊具を好き・嫌い群から全体的に上位3をみると（表4-①），好き群は「野球群」，「サッカー」，「トレーニング群」の順で、嫌い群も「野球群」，「サッカー」，「トレーニング群」と同傾向を示している。

性別でみると、男性の好き群では「サッカー」，「野球群」，「トレーニング群」の順に対して、嫌い群は「野球群」，「トレーニング群」，「サッカー」の順とほぼ同傾向となっている。一方、女性の好き群では「テニス群」，「バドミントン」，「スキー群」の順に対して、嫌い群は「縄とび」，「サッカー」，「テニス群」の順となっている。

- ①の現在活用されている傾向と同様である。

- ③ 活用されていない用具・遊具を好き・嫌い群から全体的に上位3をみると（表4-②），好き群では「野球群」，「テニス群」，「サッカー」の順で、嫌い群は「野球群」，「サッカー」，「テニス群」の順になっている。

性別でみると、男性の好き群では「野球群」，「サッカー」，「トレーニング群」の順に対して、嫌い群は「野球群」，「縄とび」，「トレーニング群」の順になっている。一方、女性の好き群では「水泳群」，「スケート群」，「テニス群」の順に対して、嫌い群は「一輪車」，「スケート群」，「縄とび」の順になっている。

スポーツ用具・遊具の活用状況については、好き・嫌い群の男女差の検定を行ったが、ときどき活用と頻繁に活用したの合計については、全体の好き・嫌い群の間に0.05%、女性の好き・嫌い群の間に0.1%、さらに活用せずについては女性の好き・嫌い群の間に0.1%、それぞれ有意な差が認められた。

(5) スポーツ「好き・嫌い群」によるスポーツ用具・遊具の購入について（表5）

好き・嫌い群によるスポーツ用具・遊具の購入項目として「最近購入のもの」、「自分で購入」の2項目と購入希望として「常識の範囲の資金」、「十分な資金がある場合」の2項目の調査結果をみると、以下のとおりになる。

- ① 最近購入した用具・遊具を好き・嫌い群から全体的にみると（表1-⑤）、好き群（0.44個）が嫌い群（0.17個）よりも購入が多いと認められる。しかも男女共通して好き群の方が多い。一番多い男性の好き群（0.48個）と女性の嫌い群（0.06個）の差が大きいことが注目される。女性の嫌い群は最近ほとんど購入していないことになる。

次に、種類数をみると（表5）、全体の好き群では22種類に対して、嫌い群は8種類となっている。性別でみると、男性の好き群が17種類、嫌い群は8種類に対して、女性の好き群では10種類、嫌い群1種類となっている。好き・嫌い群が倍以上の大きな差となって、顕著に現われていることがわかる。

さらに、最近購入した用具・遊具の種目別を好き・嫌い群の全体的に上位7をみると（表5-①）、好き群では、「サッカー」、「テニス群」、「トレーニング群」、「スキー群」・「陸上群」・「野球群」、「バスケットボール」の順で、嫌い群は「サッカー」、「トレーニング群」、「スキー群」、「スケート群」・「バスケットボール」、「卓球」・「釣り」の順となっている。

性別の上位でみると、男性の好き群では「サッカー」、「テニス群」・「トレーニング群」、「陸上群」、「バスケットボール」の順に対して、嫌い群は「サッカー」、「トレーニング群」、「バスケットボール」・「スキー群」、「釣り」の順となっている。一方、女性の好き群では「テニス群」、「スキー群」に対して、嫌い群は「スケート群」となっている。

好き・嫌い群で全体的にみると、最近購入の用具・遊具は好き群の方が多いことは顕著である。さらに、好き群の方が競技的な用具・遊具が多い。他方、嫌い群は卓球・釣り・キックボード（スケート群）といったレクリエーションとして活用する用具・遊具を好む傾向がある。

性差でみると、好き・嫌いを問わず女性よりも男性の方が、最近購入の用具・遊具が多い。このことから、男性の方がスポーツへの関心度が高いと推測される。

- ② 自分の資金で購入した場合について全体的にみると（表1-⑤）、嫌い群（0.62個）よりも

好き群（0.83 個）の方が多。性別でみると、女性の好き・嫌いの群は同傾向であるが、男性の方は好き群（1.03 個）が自分の資金で購入することが多い。

次に、種類数をみると（表5）、全体の好き群では26種類に対して、嫌い群は21種類となっている。性別でみると、男性の好き群が26種類、嫌い群は21種類に対して、女性の好き群では9種類、嫌い群5種類となっている。好き群の方が多いことがわかる。

さらに、自分の資金で購入した用具・遊具の種目別を好き・嫌い群の全体的に上位7をみると（表5-②）、好き群では「サッカー」、「野球群」、「トレーニング群」、「テニス群」、「バスケットボール」、「スキー群」、「スケート群」の順で、嫌い群は「サッカー」、「トレーニング群」、「野球群」、「テニス群」、「バスケットボール」、「縄とび」、「水泳群」の順になっている。

性別でみると、男性の好き群では「サッカー」、「野球群」、「トレーニング群」、「バスケットボール」、「テニス群」の順に対して、嫌い群は「サッカー」、「野球群」、「トレーニング群」、「バスケットボール」、「テニス群」の順となっている。一方、女性の好き群では「テニス群」、「スキー群」の順に対して、嫌い群は「テニス群」、「縄とび」となっている。

好き・嫌い群を比較すると、全体的には種目別の購入が同傾向を示している。

性差でみると、男性は好き・嫌い問わず同傾向となっている。他方、女性は自分で購入したスポーツ用具・遊具が少ないことがわかる。

③ 常識の範囲の資金での購入希望をみると（表1-⑤）、全体的には嫌い群（0.11 個）よりも好き群（0.61 個）の方が多。好き・嫌い群でみると、女性の嫌い群（0 個）は購入希望なしであり、好き・嫌い群の差が大きいことが認められる。

次に、種類数をみると（表5）、全体の好き群では25種類に対して、嫌い群は21種類となっている。性別でみると、男性の好き群が23種類、嫌い群は21種類に対して、女性の好き群では12種類、嫌い群1種類となっている。好き群の方がやや多い傾向であるが、女性の好き・嫌い群は大きな差がある。

さらに、常識の範囲での購入希望を種目別に好き・嫌い群の全体的に上位7をみると（表5-③）、好き群では「スキー群」、「トレーニング群」、「サッカー」、「野球群」、「サーフィン群」、「テニス群」、「バスケットボール」の順で、嫌い群は「トレーニング群」、「サッカー」、「スキー群」、「空スポーツ群」、「卓球」、「キャンプ群」の順となっている。

性別でみると、男性の好き群では「サッカー」、「トレーニング群」、「スキー群」、「野球群」、「サーフィン群」、「テニス群」の順に対して、嫌い群は「トレーニング群」、「スキー群」、「サッカー」、「スケート群」、「空スポーツ群」、「キャンプ群」、「卓球」の順となっている。一方、女性の好き群では「スキー群」、「水泳群」、「空スポーツ群」、「サーフィン群」の順に対して、嫌い群は「スキー群」、「水泳群」、「空スポーツ群」、「サーフィン群」の順になっている。

好き・嫌い群を比較すると、全体的な好き群では、日常性のいつでもどこでもできるスポーツ用具・遊具の購入希望が多いのに対して、嫌い群はアウトドアスポーツ用具・遊具が高い傾向を示している。その理由として、競技的スポーツよりレクリエーションとして楽しみたい願望が強いと考えられる。

性差でみると、男女ともに好き・嫌い問わず上位3種目の購入希望は同傾向を示している。これに対し下位では異傾向となっている。特に男性の購入希望の下位として、好き群は競技的スポーツがみられるのに対して、嫌い群はアウトドアスポーツの購入希望がみられ、大きな違いがある。

- ④ 十分な資金での購入希望をみると(表1-⑤)、全体的には好き・嫌い群を問わずスポーツ用具・遊具についての関心度が低いように思われる。このことが今後、生涯スポーツへの普及の歯止めにならなければと懸念される。

注目されることは、女性の嫌い群(0.44個)の購入希望が高く、次いで、男性の好き群(0.34個)、女性の好き群(0.15個)、男性の嫌い群(0.09個)の順となっている点である。

次に、種類数をみると(表5)、全体の好き群では26種類に対して、嫌い群は19種類となっている。性別でみると、男性の好き群が20種類、嫌い群19種類に対して、女性の好き群が14種類、嫌い群6種類となっている。

購入希望に関しては好き群の方が積極的であり、女性の嫌い群は消極的である。

さらに十分な資金での購入希望を種目別に好き・嫌い群の全体的に上位7をみると(表5-③)、好き群では「トレーニング群」、「スキー群」、「サーフィン群」、「サッカー」、「野球群」、「テニス群」、「空スポーツ群」の順で、嫌い群は「トレーニング群」、「ダイビング」・「空スポーツ群」、「スキー群」、「サッカー」、「スケート群」・「サーフィン群」の順となっている。

性別でみると、男性の好き群では「トレーニング群」、「スキー群」、「サッカー」、「サーフィン群」、「野球群」、「テニス群」、「空スポーツ群」の順に対して、嫌い群は「トレーニング群」、「空スポーツ群」、「スケート群」、「サーフィン群」・「キャンプ群」の順になっている。一方、女性の好き群では「テニス群」、「サーフィン群」、「空スポーツ群」、「ゲートボール群」に対して、嫌い群は「テニス群」、「サーフィン群」となっている。

好き・嫌い群で比較すると、好き群では日常性の用具・遊具(トレーニング群、サッカーなど)と離日常性、脱日常性のアウトドアスポーツ用具・遊具(空スポーツ群、サーフィン群など)とバランスのとれた購入希望があるのに対して、嫌い群では離・脱日常性に関心が高く、日頃の「するスポーツ」への関心度が低い傾向を示している。

性差でみると、女性に比べて男性の方が多種目にわたっての購入希望が多く、「するスポーツ」に対する関心度が高い傾向を示している。他方、女性は用具・遊具の購入希望が低く、「するスポーツ」から遠ざかっていく傾向がみられる。男女の好き群は購入希望が強く、種目も同傾向を

示している。

(6) スポーツ「好き・嫌い群」による仲間と楽しめるスポーツ用具・遊具について（表6-①）

好き・嫌い群による仲間と楽しめるスポーツ用具・遊具の選択について、調査結果を全体順位の上位でみると（表6-①）、好き群では「サッカー」、「野球群」、「スキー群」、「テニス群」、「バスケットボール」、「バドミントン」、「キャンプ群」、「サーフィン群」、「バレーボール」、「釣り」の順で、嫌い群は、「サッカー」、「卓球」・「スキー群」、「野球群」・「空スポーツ群」、「テニス群」・「バドミントン」・「バスケットボール」、「キャンプ群」、「サーフィン群」の順となっている。

性別でみると、男性の好き群では「サッカー」、「野球群」、「スキー群」、「バスケットボール」、「テニス群」、「サーフィン群」・「キャンプ群」・「バドミントン」、「釣り」、「トレーニング群」の順に対して、嫌い群は「サッカー」、「野球群」、「空スポーツ群」・「バドミントン」・「バスケットボール」、「テニス群」・「スキー群」、「釣り」・「キャンプ群」、「ボーリング」の順となっている。一方、女性の好き群では「テニス群」・「スキー群」、「バドミントン」・「バレーボール」、「キャンプ群」、「バスケットボール」の順に対して、嫌い群は「サーフィン群」・「スキー群」、「キャンプ群」、「テニス群」・「卓球」・「バレーボール」の順となっている。

仲間とスポーツを楽しむための用具・遊具に関しては、好き・嫌い群問わず同傾向を示している。

性差でみると、男性の好き・嫌い群を比較すると、好き群よりも嫌い群の方が仲間と新しい用具・遊具でチャレンジできるものを望んでいる傾向がある。他方、女性の嫌い群の方が自然志向型用具・遊具で楽しみたい傾向がやや高いと思われる。

さらに用具・遊具数でみると、全体の好き群が257個に対して、嫌い群118個となっている。

性別でみると、男性の好き群が205個、嫌い群94個に対して、女性の好き群では102個、嫌い群48個となっている。

好き・嫌い群の仲間と楽しめる用具・遊具では好き群の方が多い。しかし、女性の場合はほぼ同数である。

仲間と楽しめるスポーツ用具・遊具についての好き・嫌い群差の検定では、有意な差は認められなかった。

(7) スポーツ「好き・嫌い群」による大切にしているスポーツ用具・遊具について（表6-②）

好き・嫌い群による現在大切にしている用具・遊具を全体的にみると（表6-②）、好き群では「サッカー」、「野球群」、「バスケットボール」、「テニス群」・「スキー群」、「バドミントン」・「トレーニング群」、「ボーリング」・「サーフィン群」の順で、嫌い群は「サッカー」、「野球群」、「テニス群」・「バスケットボール」、「トレーニング群」、「スケート群」・「格技群」の順となっている。

表 6 仲間と楽しめる・大切にしている用具・遊具の頻度% (バスト 10)

仲間と楽しむ用具											
全 体						女					
男			女			男			女		
好き	嫌い	群	好き	嫌い	群	好き	嫌い	群	好き	嫌い	群
用具・遊具名	順位度数 %	用具・遊具名	順位度数 %	用具・遊具名	順位度数 %	用具・遊具名	順位度数 %	用具・遊具名	順位度数 %	用具・遊具名	順位度数 %
サッカー	1 46 17.9	サッカー	1 18 15.3	サッカー	1 46 22.3	サッカー	1 18 19.1	テニス群	1 8 15.7	スキー群	1 4 16.7
野球群	2 36 14.0	卓球	2 10 8.5	野球群	2 35 17.0	野球群	2 9 9.6	スキー群	2 8 15.7	サーフィン群	2 4 16.7
スキー群	3 29 11.3	スキー群	3 10 8.5	キャノンボール	3 21 10.2	卓球	3 8 8.5	バレーボール	3 7 13.7	キャノンボール	3 3 12.5
テニス群	4 26 10.1	野球群	4 9 7.6	バスケットボール	4 20 9.7	バドミントン	4 7 7.5	バドミントン	4 7 13.7	バレーボール	4 2 8.3
バスケットボール	5 23 9.0	空スपोर्टス群	5 9 7.6	テニス群	5 18 8.7	バスケットボール	5 7 7.5	テニス群	5 5 9.8	テニス群	5 2 8.3
バドミントン	6 16 6.2	バドミントン	6 8 6.8	バドミントン	6 9 4.4	空スपोर्टス群	6 7 7.5	バスケットボール	6 3 5.9	卓球	6 2 8.3
キャノンボール	7 14 5.5	バスケットボール	7 8 6.8	釣り	7 9 4.4	テニス群	7 6 6.4	空スपोर्टス群	7 3 5.9	空スपोर्टス群	7 2 8.3
サーフィン群	8 12 4.7	テニス群	8 8 6.8	サーフィン群	8 9 4.4	スキー群	8 6 6.4	サーフィン群	8 3 5.9	アイススケート	8 2 8.3
バレーボール	9 9 3.5	キャノンボール	9 7 5.93	ダイビング	9 7 3.4	釣り	9 4 4.3				
釣り	10 8 3.1	サーフィン群	10 6 5.1	トレニング群	10 6 2.9	キャノンボール	10 4 4.3				

大切にしている用具											
全 体						女					
男			女			男			女		
好き	嫌い	群	好き	嫌い	群	好き	嫌い	群	好き	嫌い	群
用具・遊具名	順位度数 %	用具・遊具名	順位度数 %	用具・遊具名	順位度数 %	用具・遊具名	順位度数 %	用具・遊具名	順位度数 %	用具・遊具名	順位度数 %
サッカー	1 43 24.7	サッカー	1 15 33.3	サッカー	1 42 37.5	サッカー	1 15 34.1	テニス群	1 7 28.0	水泳群	1 1 100
野球群	2 37 21.3	野球群	2 8 17.8	野球群	2 37 33.0	野球群	2 8 18.2	バスケットボール	2 4 16.0		
バスケットボール	3 18 10.3	バスケットボール	3 4 8.9	バスケットボール	3 14 12.5	バスケットボール	3 4 9.1	スキー群	3 3 12.0		
テニス群	4 17 9.8	テニス群	4 4 8.9	テニス群	4 10 8.9	テニス群	4 4 9.1	バドミントン	4 2 8.0		
スキー群	5 17 9.8	トレニング群	5 3 6.7	スキー群	5 8 7.1	トレニング群	5 3 6.8	卓球	5 2 8.0		
バドミントン	6 6 3.5	スケート群	6 2 4.4	トレニング群	6 6 5.4	スケート群	6 2 4.6	ソフトボール	6 2 8.0		
トレニング群	7 6 3.5	格技群	7 2 4.4	バドミントン	7 4 3.6	格技群	7 2 4.6				
陸上群	8 3 1.7			陸上群	8 3 2.7						
ラグビー	9 3 1.7			ラグビー	9 3 2.7						
ボーリング	10 3 1.7			ボーリング	10 3 2.7						
卓球	11 3 1.7										
サーフィン群	12 3 1.7										

表 6-②

性別でみると、男性の好き群では「サッカー」、「野球群」、「バスケットボール」・「スキー群」、「テニス群」、「トレーニング群」、「バドミントン」の順に対して、嫌い群は「サッカー」、「野球群」、「テニス群」・「バスケットボール」、「トレーニング群」、「スケート群」・「格技群」の順となっている。一方、女性の好き群は「テニス群」、「バスケットボール」、「スキー群」、「ソフトボール」・「卓球」・「バドミントン」の順に対して、嫌い群は「水泳群」となっている。

現在、大切にしている用具・遊具は、好き・嫌い群問わず同傾向である。

性差でみると、好き・嫌い群の男性は同傾向に対して、女性の嫌い群の用具・遊具関心度が低すぎると思われる。

さらに用具・遊具数でみると、全体の好き群が174個に対して、嫌い群が45個となっている。

性別でみると、男性の好き群が144個、嫌い群は44個に対して、女性の好き群では50個、嫌い群2個となっている。

用具・遊具数は、好き群の方が大切にしている割合は高く、嫌い群との差が大きいことがわかる。現在大切にしているスポーツ用具・遊具についての好き・嫌い群の差の検定では、全体の好き・嫌い群の間に0.1%、男性の好き・嫌い群の間に0.05%、女性の好き・嫌い群の間に0.1%とそれぞれ有意な差が認められた。

ま と め

スポーツ用具・遊具の活用に関して、好き・嫌いの要素が及ぼす影響について調査分析した結果、下記のような結論をみるに至った。

所有個数の平均値をみると、好き群は今までに所有した個数7.4個で現在も活用しているものは2.49個である。これに対して、嫌い群は所有6.7個で現在活用しているものは1.96個となっている。スポーツライフ白書¹²⁾ における平均所有個数は2.9個となっており、所有個数の点ではほぼ同傾向を示している。しかし現在も活用している用具・遊具では異傾向となっている。これは、加齢とともに好き・嫌い群の差が大きくなり、しかも好き群の方が活用頻度が高くなっている傾向があるためである。このことから、スポーツ用具・遊具を活用しスポーツに親しむ環境を作っていく上では、活用の時期がポイントであると考えられる。特に、幼児期に運動・スポーツ・遊びを通じて楽しさを知ることやスポーツを体験させることが重要な要素^{14)~16)} になっていると言えるだろう。

次いで、用具・遊具の種類をみると、女性の方は好き群（52種類）と嫌い群（37種類）との差が大きい。それは男性に比べて女性の方が、より好き・嫌いの区別をしている傾向がみられる。こうした結果から、女性向けのスポーツ用具・遊具の調査や研究が必要になってくるとと思われる。さらに、女性に対してのスポーツのモチベーションを高める方法も考えるべきであろう。

活用頻度を時期的にみると、好き嫌い問わず最も多く活用した時期は高校期となっている。性差の種類をみると、男性の好き群が最も多いのは小学校期の44種類に対して、女性では小学校以前期の24種類となっている。他方、嫌い群の男性は小学校期40種類に対して、女性では小学校期の7種類となっている。活用時期の推移からみると、好き群と嫌い群とでは小学校以前期の最初の段階で、用具・遊具の所有数と種類数に大きな差がみられる。つまり、好き群は多くのスポーツ用具・遊具を体験していることになる。この点からも上述した所有個数の平均値同様、幼児期がキーワードとなっている。

最近購入した用具・遊具をみると、好き・嫌い群別では当然のことながら好き群が多い結果となっている。特に、女性の嫌い群はほとんど購入していない状態である。スポーツライフ白書12)をみてもスポーツ用具・遊具に関しての支出は、女性は男性の1/3となっている。

さらに十分な資金があると想定しての希望をみると、注目すべき点は、所有個数の最も少ない嫌い群で購入希望が高い傾向を示していることである。嫌い群は新しいスポーツやアウトドアスポーツに関心があると思われる。しかも一人で楽しめる用具・遊具および非競技性のスポーツ用具・遊具を好む傾向が高い。他方、好き群では競技的なもの、仲間と一緒に楽しめるもの、活動的なアウトドアスポーツ用具・遊具が好まれていることが特徴である。さらに、好き群はいつでもできる日常性のものに加えて週休コースの離日常性のもの、遠出するシーズンスポーツのものを選び、レジャースポーツサイクルのバランスがとれた理想的なものを希望していることがうかがえる。

仲間と楽しめるものや大切にしているスポーツ用具・遊具の種類については、好き群と嫌い群との間には有意な差は認められず、また一定の傾向もみられなかった。しかし、用具・遊具数は、好き群の方が多い。

総合的にまとめると、次のように結論づけることができる。

「するスポーツ」を楽しむ、レジャー・レクリエーションとして生涯スポーツが日常生活の一部となっていくためには、幼児期におけるスポーツとの拘り方が重要なポイントとなる。このために、幼児期からスポーツ用具・遊具に親しみ、楽しめる環境づくりをすることが急務である。さらに、嫌い群であってもアウトドアスポーツあるいはシーズンスポーツへの意識は高いことがわかった。このことをみても、早い時期から生涯スポーツへの橋渡しとなるアウトドアスポーツに親しむことが肝要である。小学校以前期又は小学校期から自然体験学習として、アウトドアスポーツを取り入れるべきであろう。

参考文献

- 1) 自由時間デザイン協会, (2003), レジャー白書 2003, 28
- 2) 横内靖典・西田俊夫, (2002), 城西大学研究年報(自然科学編)第26巻
- 3) S. Smith. An approach. Avoidance Motivations Scale for Sports. Candion Journal of Applied Sports Science. 39-43
- 4) 加藤秀夫, (1987), 運動の好きな子, 嫌いな子, 体育科学教育, 14-17
- 5) 猪俣春世, (1988), 運動意欲を測る, 学校体育 41 巻 7 号
- 6) 猪俣公宏, 猪俣春世, (1988), 運動意欲の標準化に関する研究, 1988 年度文部省科学研究費研究成果報告書
- 7) SSF 笹川スポーツ財団, (2002), 青少年スポーツライフ・データ, 27
- 8) SSF 笹川スポーツ財団, (1996), スポーツ白書
- 9) 岡本包治, (1992), 地域における生涯スポーツの振興, ぎょうせい
- 10) B・J・Cratty (1968) Psychology and Physical Activity. Prentice-Hall. 73-92
- 11) 国土交通省, (2002), 観光レクリエーションの実態, 財務省印刷局
- 12) 江田昌佑, (1998), スポーツライフ白書, ぎょうせい
- 13) 加藤 寛, (2003), ライフデザイン白書, 第一生命経済研究所
- 14) 宇土正彦, (1999), 幼児の健康と運動遊び, 保育出版社, 70-74
- 15) 浅田隆夫, (1998), 幼児の運動あそびの新しい進め方, 学術図書出版社, 1-3
- 16) 西田俊夫, (1991), 幼児期の運動あそび, 不味堂出版, 20-23